

第2四半期報告書

本書は、EDINET (Electronic Disclosure for Investors' NETwork) システムを利用して金融庁に提出した第2四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものであります。

株式会社シーマ

(E03333)

目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
3 【関係会社の状況】	3
4 【従業員の状況】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【仕入及び販売の状況】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態及び経営成績の分析】	5
第3 【設備の状況】	9
第4 【提出会社の状況】	10
1 【株式等の状況】	10
(1) 【株式の総数等】	10
【株式の総数】	10
【発行済株式】	10
(2) 【新株予約権等の状況】	10
(3) 【ライツプランの内容】	10
(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	10
(5) 【大株主の状況】	11
(6) 【議決権の状況】	12
【発行済株式】	12
【自己株式等】	12
2 【株価の推移】	12
【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】	12
3 【役員の状況】	12
第5 【経理の状況】	13
1 【四半期連結財務諸表】	14
(1) 【四半期連結貸借対照表】	14
(2) 【四半期連結損益計算書】	16
【第2四半期連結累計期間】	16
【第2四半期連結会計期間】	17
(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】	18
【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】	19

【簡便な会計処理】	19
【注記事項】	20
【事業の種類別セグメント情報】	22
【所在地別セグメント情報】	22
【海外売上高】	22
2 【その他】	23
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	24
レビュー報告書	巻末

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成20年11月13日
【四半期会計期間】	第15期第2四半期（自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日）
【会社名】	株式会社シーマ
【英訳名】	CIMA Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 白石 幸栄
【本店の所在の場所】	東京都中央区銀座二丁目6番3号 (同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記で行っています。)
【電話番号】	(03)3567-8091(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 資本政策部長 柳田 純克
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区銀座一丁目7番10号
【電話番号】	(03)3567-8098
【事務連絡者氏名】	執行役員 資本政策部長 柳田 純克
【縦覧に供する場所】	株式会社ジャスダック証券取引所 (東京都中央区日本橋茅場町一丁目4番9号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第2四半期 連結累計期間	第15期 第2四半期 連結会計期間	第14期
会計期間	自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	自平成20年7月1日 至平成20年9月30日	自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
売上高(千円)	5,840,209	3,139,433	11,938,563
経常利益(千円)	261,201	207,002	1,061,613
四半期(当期)純利益(千円)	117,148	97,783	574,827
純資産額(千円)	-	5,596,719	5,662,861
総資産額(千円)	-	9,116,830	8,761,900
1株当たり純資産額(円)	-	30.46	30.82
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	0.64	0.53	3.13
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	-	61.4	64.6
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	337,553	-	299,471
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	445,470	-	516,108
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	226,617	-	228,774
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	-	583,062	1,139,525
従業員数(人)	-	510	440

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれていません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

3. 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数（人）	510	(45)
---------	-----	------

（注）従業員数は就業人員（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であり、臨時従業員数は、当第2四半期連結会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しています。なお、臨時従業員には、パートタイマーおよび嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いています。

(2) 提出会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数（人）	493	(35)
---------	-----	------

（注）従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は、当第2四半期会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しています。なお、臨時従業員には、パートタイマーおよび嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いています。

第2【事業の状況】

1【仕入及び販売の状況】

(1) 仕入実績

当第2四半期連結会計期間の仕入実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、以下のとおりです。

事業の種類別セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
ブライダルジュエリー事業(千円)	1,227,615
ウエディングプロデュース事業(千円)	36,157
合計(千円)	1,263,773

(注)上記の金額には、消費税等は含まれていません。

(2) 販売実績

当第2四半期連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、以下のとおりです。

事業の種類別セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
ブライダルジュエリー事業(千円)	3,074,141
ウエディングプロデュース事業(千円)	65,292
合計(千円)	3,139,433

(注)1.セグメント間の取引については、相殺消去しています。

2.上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、新たに締結した重要な契約は次のとおりです。

委託販売契約

契約会社	相手先名	国名	契約品目	契約締結日	契約内容
(株)シーマ (当社)	Diamonds of the World Trading Ltd.	中国(香港)	ダイヤモンド (ルース)	平成20年8月5日	委託販売

(注)9月30日現在の委託商品残高は、502,264千円です。

3【財政状態及び経営成績の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものです。

（１）業績の状況

当第２四半期連結会計期間（平成20年7月1日～平成20年9月30日）におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な信用収縮が懸念される中、個人消費の停滞や設備投資抑制の動きが見られるなど、国内景気の減速懸念は一段と高まってまいりました。

このような経済状況のもと、当社グループの主力とするブライダルジュエリー事業において、8月の売上は、月間の売上計画を2.2%上回り、9月の売上は、計画に対して3.1%下回りましたが、10月に持ち越された受注残が前年同月比で15.4%増となるなど、業績は徐々に改善しました。

その結果、当第２四半期連結会計期間の業績は、売上高31億39百万円、営業利益2億15百万円、経常利益2億7百万円、四半期純利益97百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりです。

<ブライダルジュエリー事業>

主力のブライダルジュエリー事業（銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベルの3ブランド）の業績は、売上高30億74百万円、営業利益2億26百万円となりました。

また、当第２四半期連結会計期間の売上総利益率は、66.6%となり、第１四半期連結会計期間の68.1%に引き続き、高い水準を維持しました。

今期8月および9月の売上が回復基調へと転換したことに加えて、下半期に向けて営業体制の強化を進めていることなどから、クリスマス商戦を含む下半期の業績挽回をはかる所存です。

当第２四半期連結会計期間におけるブライダルジュエリー事業の主な施策などは、以下のとおりです。

1) 新店舗5店開設

以下新店舗5店を開設しました。

- 7月5日 「エクセルコダイヤモンド大宮店」を開設
- 7月9日 「エクセルコダイヤモンド名駅店」を開設
- 7月26日 「エクセルコダイヤモンド仙台店」を開設
- 8月23日 「エクセルコダイヤモンド広島店」を開設
- 9月27日 「エクセルコダイヤモンド福井店」を開設

2) 商品力強化

（銀座ダイヤモンドシライシ）

・新作セットリング“ Aqua Nina（アクアニーナ）”を7月23日に発表、発売直後より人気商品となり、2年間続いた1番人気商品を超え、1位を継続。

（エクセルコダイヤモンド）

・新作ティアラ2点“ Centifolia（センチフォリア）”および“ Naiad（ナイアード）”を9月に発表。

・新作セットリング“ St. Hubert（サンテュベール）”およびエクセルコブランド初のメンズマリッジリング“ Chevalier（シュバリエ）”を9月23日に発表。

（ホワイトベル）

・オリジナルマリッジリングシリーズ“ Happy Pattern（ハッピーパターン）”を8月30日に発表。

3) 提携先ホテル・式場数の増大と提携関係のさらなる強化

4) ギフト販売の好調な伸び

（提携先の増加などによる販売網の拡充により、売上29百万円となりました。）

5) ティアラ・レンタルサービスの顕著な伸び

（提携先数は本年6月末から12社増加し、売上は2百万円となりました。）

以上により、ブランド別売上は、銀座ダイヤモンドシライシが19億4百万円、エクセルコダイヤモンドが9億78百万円、ホワイトベルが1億77百万円となりました。

ブライダルジュエリー事業の売上が伸び悩んだ主な要因は、国内景気の低迷などによるものです。

また、ブライダルジュエリー事業における商品部売上など本社関連“その他”の売上は、13百万円となりました。

（以下のブランド別売上高をご参照願います。）

<ウエディングプロデュース事業>

ウエディングプロデュース事業を展開する連結子会社、株式会社トゥインクルスターの当第2四半期連結会計期間における業績は、売上高65百万円、営業損失11百万円となりました。

ブランド別売上高

事業の種類別セグメントの名称	ブランドの名称など	当第2四半期連結会計期間(千円) (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	構成比(%)
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ	1,904,252	60.7
	エクセルコダイヤモンド	978,744	31.2
	ホワイトベル	177,448	5.6
	その他(注)2	13,695	0.4
ウエディングプロデュース事業	オリーブの丘(注)3	65,292	2.1
合 計		3,139,433	100.0

(注)1.上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2.ブライダルジュエリー事業の「その他」は、商品部売上など本社関連の売上となっています。

3.「オリーブの丘」は、株式会社トゥインクルスターのブランド名です。

4.セグメント間の取引については、相殺消去しています。

販売・サービス別売上高

事業の種類別セグメントの名称	販売・サービスの名称など	当第2四半期連結会計期間(千円) (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	構成比(%)
ブライダルジュエリー事業	ブライダルジュエリー販売	2,972,798	94.7
	ファッションジュエリー販売	62,488	2.0
	ギフト販売	29,225	0.9
	ウエディング送客サービス	6,907	0.2
	その他(注)2	2,720	0.1
ウエディングプロデュース事業	ウエディングプロデュースなど	65,292	2.1
合 計		3,139,433	100.0

(注)1.上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2.ブライダルジュエリー事業の「その他」は、ティアラ・レンタルサービスなどの売上となっています。

3.セグメント間の取引については、相殺消去しています。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の四半期末残高は5億83百万円となり、前四半期連結会計期間末に比べて1億88百万円減少しました。各キャッシュ・フローの状況と要因は、以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1億86百万円の収入となりました。原材料又は商品の仕入れによる支出、人件費の支出、その他の営業支出の減少と、売上増にともなう営業収入の増加などによる結果です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、2億80百万円の支出となりました。新規出店にともなう支出などによる結果です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、94百万円の支出となりました。短期借入金の返済による支出、長期借入金の返済による支出などによる結果です。

(3) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因および経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く主な事業環境であるブライダルジュエリー市場は、企業間競争の激化と国内景気低迷により、厳しさが今後も予想されますが、当社グループの当期の連結会計年度(平成20年4月1日～平成21年3月31日)における業績は、ダイヤモンドをコアとした独自のビジネスモデルの優位性により、堅調に推移する見通しです。

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえて、ブライダルジュエリー事業を中心に、当社グループの各事業・各店舗の特長を最大限に生かした販売促進・広告宣伝活動を行うとともに、社員教育の充実による質の高いサービスを提供し、顧客満足度の向上を目指します。

また、ウエディングプロデュース事業を展開する連結子会社、株式会社トゥインクルスターの業績は、平成20年9月に議決権を100%取得した上で、同社の若手人材を専務取締役に登用し、営業体制の強化および経費削減をはかるとともに、新規提携先の拡大などによる収入増が期待されることから、通期での黒字化を見込んでいます。

その他、上記以外の新規事業、M & Aも含めた新たな収益基盤の構築も機動的に検討していきます。

以上により、当社グループは、ブライダルジュエリー業界における優位性をさらに強化し、収益の最大化に努めます。

本資料の上記の予想は、提出日現在において、入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

(6) 資本の財源および資金の流動性についての分析

(資産の部)

流動資産は、新規出店などにより商品及び製品が増加したものの、現金及び預金、繰延税金資産が減少したため、前連結会計年度末に比べて98百万円減少して64億25百万円となりました。また、固定資産は、同じく新規出店にともなう有形固定資産、敷金及び保証金などの増加により、前連結会計年度末に比べて4億53百万円増加し、26億91百万円となりました。この結果、当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて3億54百万円増加し、91億16百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、支払手形及び買掛金、短期借入金、未払金及び未払費用、前受金などの増加により、前連結会計年度末に比べて3億22百万円増加して31億95百万円となりました。固定負債は、長期借入金、長期未払金などの増加により、前連結会計年度末に比べて98百万円増加し、3億24百万円となりました。この結果、当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて4億21百万円増加し、35億20百万円となりました。

(純資産の部)

純資産合計は、利益剰余金などの減少により、前連結会計年度末に比べて66百万円減少し、55億96百万円となりました。

結果として、自己資本比率は61.4%となり、当第2四半期連結会計期間末の1株当たり純資産額は30円46銭となりました。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

財務報告に係る内部統制報告制度への対応に向け、平成21年3月31日の期末日に向けて、計画通り準備を進めています。

また、当社グループの今後の方針について、重要な変更はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画は次のとおりです。

会社名事業所名	所在地	事業の種類別セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月	
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了
(株)シーマ	東京都中央区	ブライダル ジュエリー 事業	店舗設備	55,951	-	自己資金及 び借入金	平成20年 8月	平成20年 10月
(株)シーマ	福岡県北九州市 小倉北区	ブライダル ジュエリー 事業	店舗設備	30,050	7,050	自己資金及 び借入金	平成20年 10月	平成20年 11月

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	700,000,000
計	700,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成20年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成20年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	183,765,644	183,765,644	ジャスダック証券取引所	-
計	183,765,644	183,765,644	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成20年7月1日~ 平成20年9月30日	-	183,765,644	-	1,777,743	-	1,536,643

(5) 【大株主の状況】

平成20年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社JDE	東京都新宿区新宿一丁目23番6 - 808号	36,627	19.93
白石 幸生	東京都渋谷区	36,460	19.84
白石 幸栄	東京都渋谷区	20,200	10.99
白石 勝代	東京都渋谷区	13,130	7.14
株式会社ベルコ	大阪府池田市空港一丁目12番10号	1,212	0.65
林 たえ子	山口県周南市	733	0.39
ユニオン パンケ プリベ (常任代理人 株式会社三井住友 銀行証券ファイナンス営業部)	RUE DU RHONE 96-98,CASE POSTALE 1320,1211 GENEVE (東京都千代田区丸の内一丁目3番2号)	664	0.36
齋藤 幸子	滋賀県大津市	606	0.32
鶴田 昭彦	神奈川県横浜市旭区	493	0.26
芦原 啓三	北海道札幌市南区	479	0.26
計	-	110,605	60.18

(注) 1. 株式会社JDEは、平成20年9月18日付けで、株式会社さくら画廊から商号を変更しています。

2. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位を切捨てています。

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

平成20年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 630	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 183,741,310	18,374,131	-
単元未満株式	普通株式 23,704	-	-
発行済株式総数	183,765,644	-	-
総株主の議決権	-	18,374,131	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には証券保管振替機構名義の株式が197,510株含まれています。また「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式にかかる議決権の数19,751個が含まれています。

【自己株式等】

平成20年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社シーマ	東京都中央区銀座二丁目6番3号	630	-	630	0.0
計	-	630	-	630	0.0

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	47	48	41	40	38	32
最低(円)	40	39	38	36	28	24

(注) 最高・最低株価は、ジャスダック証券取引所におけるものです。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）にもとづいて作成しています。

なお、当第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成20年8月7日内閣府令第50号）附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則にもとづいて作成しています。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定にもとづき、当第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、ピーエー東京監査法人による四半期レビューを受けています。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	583,062	1,139,525
受取手形及び売掛金	570,721	586,762
商品及び製品	5,026,071	4,534,738
前払費用	96,423	94,276
繰延税金資産	15,745	54,979
その他	135,619	119,881
貸倒引当金	1,963	5,490
流動資産合計	6,425,679	6,524,673
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	¹ 1,028,755	¹ 729,298
車両運搬具(純額)	¹ 437	¹ 488
工具、器具及び備品(純額)	¹ 447,257	¹ 348,642
建設仮勘定	4,143	7,393
有形固定資産合計	1,480,594	1,085,823
無形固定資産		
ソフトウェア	15,301	15,967
電話加入権	5,504	5,504
無形固定資産合計	20,806	21,471
投資その他の資産		
長期前払費用	53,840	67,996
敷金及び保証金	1,095,271	1,024,793
繰延税金資産	38,949	35,463
その他	1,687	1,678
投資その他の資産合計	1,189,749	1,129,931
固定資産合計	2,691,150	2,237,226
資産合計	9,116,830	8,761,900

(単位：千円)

前連結会計年度末に係る
要約連結貸借対照表
(平成20年3月31日)当第2四半期連結会計期間末
(平成20年9月30日)

負債の部

流動負債

支払手形及び買掛金	468,268	340,138
短期借入金	1,675,084	1,300,061
1年内返済予定の長期借入金	69,140	62,056
未払金及び未払費用	511,158	437,126
未払法人税等	118,449	336,718
前受金	322,419	298,628
その他	30,802	97,993
流動負債合計	3,195,322	2,872,722

固定負債

長期借入金	105,360	66,944
退職給付引当金	82,936	72,924
長期未払金	136,491	86,447
固定負債合計	324,787	226,316

負債合計

負債合計	3,520,110	3,099,039
------	-----------	-----------

純資産の部

株主資本

資本金	1,777,743	1,777,743
資本剰余金	1,536,643	1,536,643
利益剰余金	2,280,794	2,347,411
自己株式	69	68
株主資本合計	5,595,110	5,661,728

評価・換算差額等

その他有価証券評価差額金	99	99
繰延ヘッジ損益	-	442
為替換算調整勘定	1,709	1,675
評価・換算差額等合計	1,609	1,133

純資産合計

純資産合計	5,596,719	5,662,861
-------	-----------	-----------

負債純資産合計

負債純資産合計	9,116,830	8,761,900
---------	-----------	-----------

(2)【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	5,840,209
売上原価	1,944,409
売上総利益	3,895,800
販売費及び一般管理費	¹ 3,617,316
営業利益	278,484
営業外収益	
受取利息	292
雑収入	4,198
営業外収益合計	4,491
営業外費用	
支払利息	16,690
為替差損	4,863
雑損失	220
営業外費用合計	21,774
経常利益	261,201
特別利益	
貸倒引当金戻入額	3,559
役員退職慰労引当金戻入額	1,500
特別利益合計	5,059
特別損失	
固定資産除却損	² 8,283
特別損失合計	8,283
税金等調整前四半期純利益	257,977
法人税、住民税及び事業税	105,080
法人税等調整額	35,749
法人税等合計	140,829
四半期純利益	117,148

【第2四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
売上高	3,139,433
売上原価	1,061,732
売上総利益	2,077,701
販売費及び一般管理費	¹ 1,862,522
営業利益	215,179
営業外収益	
受取利息	292
雑収入	3,757
営業外収益合計	4,049
営業外費用	
支払利息	8,945
為替差損	3,260
雑損失	20
営業外費用合計	12,226
経常利益	207,002
特別利益	
貸倒引当金戻入額	2,060
特別利益合計	2,060
税金等調整前四半期純利益	209,062
法人税、住民税及び事業税	97,304
法人税等調整額	13,973
法人税等合計	111,278
四半期純利益	97,783

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
 (自 平成20年4月1日
 至 平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
営業収入	6,025,679
原材料又は商品の仕入れによる支出	2,454,581
人件費の支出	1,327,866
その他の営業支出	2,249,255
小計	6,024
利息及び配当金の受取額	232
利息の支払額	17,345
その他の収入	6,157
その他の支出	223
法人税等の支払額	320,351
営業活動によるキャッシュ・フロー	337,553
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	371,269
無形固定資産の取得による支出	2,383
敷金及び保証金の差入による支出	72,802
敷金及び保証金の回収による収入	1,324
その他	339
投資活動によるキャッシュ・フロー	445,470
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	600,026
短期借入金の返済による支出	225,000
長期借入れによる収入	100,000
長期借入金の返済による支出	69,442
自己株式の取得による支出	1
配当金の支払額	178,964
財務活動によるキャッシュ・フロー	226,617
現金及び現金同等物に係る換算差額	56
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	556,463
現金及び現金同等物の期首残高	1,139,525
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 583,062

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
1. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更</p> <p>たな卸資産</p> <p>通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として個別法または総平均法による原価法によっていましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことにもない、主として個別法または総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切下げの方法)により算定しています。</p> <p>これによる営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微です。</p>

【簡便な会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
固定資産の減価償却費の算定方法	定率法を採用している固定資産については、連結会計年度にかかる減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっています。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)		前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	
1	有形固定資産の減価償却累計額	1,079,269千円	1 有形固定資産の減価償却累計額 1,002,915千円

(四半期連結損益計算書関係)

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
1. 販売費及び一般管理費のうち主要な品目ならびに金額は、以下のとおりです。	
給与手当	1,006,390千円
広告宣伝費	712,422
地代家賃	533,955
支払手数料	410,317
減価償却費	98,889
退職給付費用	13,866
貸倒引当金繰入額	32
なお、地代家賃には、百貨店などのインショップ7店舗に関する歩合家賃を含めています。	
2. 固定資産除却損の内訳は、以下のとおりです。	
建物附属設備	5,890千円
工具、器具及び備品	2,392
計	8,283

当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	
1. 販売費及び一般管理費のうち主要な品目ならびに金額は、以下のとおりです。	
給与手当	515,840千円
広告宣伝費	371,844
地代家賃	271,059
支払手数料	217,020
減価償却費	56,471
退職給付費用	6,660
なお、地代家賃には、百貨店などのインショップ6店舗に関する歩合家賃を含めています。	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成20年 9 月30日)	
1	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結 貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年 9 月30日現在)
	現金及び預金勘定 583,062千円
	現金及び現金同等物 583,062千円

(株主資本等関係)

当第 2 四半期連結会計期間末 (平成20年 9 月30日) および当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成20年 9 月30日)

- 1 . 発行済株式の種類及び総数
普通株式 183,765,644株
- 2 . 自己株式の種類及び株式数
普通株式 636株
- 3 . 新株予約権等に関する事項
該当事項はありません。
- 4 . 配当に関する事項
配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年 6 月26日 定時株主総会	普通株式	183,765	1.0	平成20年 3 月31日	平成20年 6 月27日	利益剰余金

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

	ブライダル ジュエリー事業 (千円)	ウエディング プロデュース 事業 (千円)	計 (千円)	消去または全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	3,074,141	65,292	3,139,433	-	3,139,433
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	230	297	527	527	-
計	3,074,371	65,589	3,139,961	527	3,139,433
営業利益又は営業損失()	226,439	11,260	215,179	-	215,179

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	ブライダル ジュエリー事業 (千円)	ウエディング プロデュース 事業 (千円)	計 (千円)	消去または全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	5,684,196	156,013	5,840,209	-	5,840,209
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	230	489	719	719	-
計	5,684,426	156,502	5,840,929	719	5,840,209
営業利益又は営業損失()	292,215	13,731	278,484	-	278,484

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、商品の系列および市場の類似性を考慮して区分しています。

2. 各区分に属する主要なブランド

事業区分	主要ブランドなど
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベル
ウエディングプロデュース事業	オリーブの丘

【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

【海外売上高】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

海外売上高がないため該当事項はありません。

(有価証券関係)

記載すべき事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

記載すべき事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)		前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	
1株当たり純資産額	30円46銭	1株当たり純資産額	30円82銭

2. 1株当たり四半期純利益金額

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	
1株当たり四半期純利益金額	0円64銭	1株当たり四半期純利益金額	0円53銭
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
四半期純利益(千円)	117,148	97,783
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	117,148	97,783
期中平均株式数(千株)	183,765	183,765

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

記載すべき事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月12日

株式会社シーマ

取締役会 御中

ピーエー東京監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 原 伸之 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 若槻 明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社シーマの平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社シーマ及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。